

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

[医科学専攻(修士課程)]

標準修業年限(2年)在籍し、課程設置の趣旨と人材養成目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、履修コース・学位プログラムに応じて、修士(医科学)または修士(公衆衛生学)の学位を授与します。

1. 関連分野の基礎的な理論や概念を理解し、研究に必要な専門知識・技能を身につけている。
2. 専門分野における適切なテーマを設定して研究を遂行できる能力または高度の専門性を求められる職業等に必要な能力を有している。
3. 専門分野の研究における高い倫理観を身につけている。
4. 研究成果を発信できる能力を身につけている。
5. 執筆した修士論文が学術に寄与しうる成果を有している。

[医学専攻(博士課程)]

標準修業年限(4年)在籍して、体系的教育コースであるコアプログラム(基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ)及び専門領域における研究指導コースである専門プログラム(専門教育、専門研究)合計で30単位以上を修得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、査読のある国際的学術誌に筆頭著者として博士課程修了後1年以内に投稿することが可能と判定される原著論文についての学位審査及び最終試験に合格した者に対し、博士(医学)の学位を授与します。ただし、評価の高い国際雑誌に論文を発表し、高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を確認できた場合には、3年次に学位試験を受験することができます。

1. 関連分野の幅広い理論や概念を総合的に理解し、研究推進に必要とされる高度な専門知識・技能を身につけている。
2. 独創的な発想をもとに専門分野における課題発見および問題解決を主体的に推進できる能力または高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力を有している。
3. 専門分野の研究における高い倫理観を身につけている。
4. 研究成果を国際的に発信し当該分野の研究の発展に貢献できる能力を身につけている。
5. 執筆した博士論文が学術に寄与する優れた研究成果を有している。

[医科学専攻(修士課程) 学位プログラム版の各ポリシー]

<https://med.juntendo.ac.jp/graduate/policy.html>

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医学研究科

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[医科学専攻(修士課程)]

本専攻においては、医学分野以外の教育を受けた学生・社会人・外国人などに対し、医科学の基礎的知識を身に付け、更に専門的研究力を身に付けるための教育課程を編成します。

1. 基礎教育科目

医科学分野の基礎的知識を修得し、のちに専門的研究力を身に付けるために必要となる基礎的な能力を修得するカリキュラムを編成します。

2. 専門教育科目

医療関連企業従事者、病院勤務者、大学・研究所勤務者などが、それぞれのキャリア・興味・関心に応じて、自らに不足している高度な専門的知識・技能及び研究を遂行できる能力を修得する授業を展開するとともに、研究者や高度専門職業人に求められる判断力、強い責任感及び高い倫理観を育むカリキュラムを編成します。

3. 研究指導科目

研究計画書に基づいて研究を遂行し、厳格な評価の下、研究成果の中間発表、修士論文の審査及び試験を適切に実施します。それらの評価結果の活用を通じて教育方法の改善を図ります。

[医学専攻(博士課程)]

本専攻においては、研究者に必要な基礎的能力を養うコアプログラムと、それを応用する方法を学ぶ専門プログラムからなる教育課程を編成します。

1. コアプログラム

①基礎教育 [Unit1]

博士課程における導入教育として、Basic Course (研究手法の原理・科学的思考法などの医学者に必要とされる基礎知識)、Research Support Course (実験方法や解析方法の基礎的知識)、Advanced Course (研究プロジェクト遂行と学位論文作成のための基礎教育)の3科目で構成されるカリキュラムを編成します。

②実践教育 [Unit2]

基礎医学・臨床医学融合型のコースワーク(講義・演習・実習を組み合わせた授業)を編成します。大学院生個々のキャリアパスに応じて複数のテーマからコースを選択することができ、実践的な研究遂行能力を育成します。

③レクチャーシリーズ [Unit3]

大学院生が所属する教育研究分野に関連する領域の研究を幅広く学修し、豊かな教養の涵養と国際的通用性を身につけるカリキュラムです。大学院特別講義(英語による講義を含む)、Current Topics(学内で開催される最先端の医学・医療セミナー)及びE-learning等のコースワークを編成します。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) 大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医学研究科

2. 専門プログラム

①専門教育（講義・演習・実験実習）[Unit4]

②専門研究（論文・研究指導）[Unit5]

専門プログラムは、専門教育（講義・演習・実験実習）と専門研究（論文・研究指導）で編成され、研究者養成（基礎系・臨床系）、高度臨床専門家養成（臨床研究）を目的としたプログラムです。大学院生が所属する教育研究分野の研究室における個人指導によって、自ら研究プロジェクトを遂行し、研究の本質を見極める判断力、独創的な発想、強い責任感と高い倫理観及び新たな分野を切り開く能力を修得するプログラムを編成します。

3. 研究遂行・成果発表

研究計画書に基づいて研究を遂行し、3年次後半に学位論文の研究に関する研究成果の中間発表を行います。中間発表は抄録作成・口頭発表ともに英語で行い、英文による論文作成を指導します。審査員による評価と助言を受けると同時に研究の進捗状況が研究科委員会に報告されます。それらの評価結果の活用を通じて教育方法の改善を図ります。

以上のような大学院教育によって、生涯にわたって医学と向き合う姿勢を持った基礎医学者や臨床医学者、及びその両方を兼ね備えた Physician-Scientist、究極的には心身共に病める人々を救済する“志高き医師・医学者”を育成します。

[医科学専攻（修士課程）学位プログラム版の各ポリシー]

<https://med.juntendo.ac.jp/graduate/policy.html>

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

スポーツ健康科学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

スポーツ健康科学研究科は、建学の理念及び教育目標の下、課程毎に定める基準を満たし、次の資質・能力を身に付けるとともに、学位論文の審査及び試験に合格した者に対し、その課程に応じ所定の学位を授与します。

[スポーツ健康科学専攻(博士前期課程)]

1. スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
2. 高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力
3. 得られた知識を基に、学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力

[スポーツ健康科学専攻(博士後期課程)]

1. スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力
2. 高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢
3. 国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

大学院においては、学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を実践するとともに、ディプロマ・ポリシーに示す高度な研究能力・実務能力を身に付けられるよう、課程毎に以下のとおり教育課程を編成・実施するとともに、学修成果を適切に評価します。

[スポーツ健康科学専攻(博士前期課程)]

博士前期課程では、スポーツ健康科学の専門家の養成に向け、入学後の半年間で基礎知識等を学べるように基礎科目を配置した上で、専門科目を配置します。基礎科目と専門科目で得られた知識を基に、学問的課題に論理的解答を与えるためのより高度な専門的研究法を提供し、学問的成果を論理的にまとめる能力や高い倫理観を醸成するため修士論文を課します。修士論文は、審査会及び発表会を実施することで評価します。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

[スポーツ健康科学専攻(博士後期課程)]

博士後期課程では、スポーツ健康科学の分野で国際的に先進的な活躍ができる研究者や高度専門職業人の養成に向け、スポーツ科学、スポーツ社会科学及び健康科学に関する研究の先鋭化と深化を図り、さらに、これらを総合するための講義や演習科目を開講します。その上で、研究指導教員及び研究指導補助教員が、少数の学生に対して、修業年限内での博士論文作成を目指すのみならず、真理の探究に向かう真摯な姿勢、国際的な視野、指導力及び高い倫理観を

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

スポーツ健康科学研究科

育むよう濃厚な指導を行います。博士論文は、審査会及び発表会を実施することで評価します。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医療看護学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

[看護学専攻(博士前期課程)]

標準修業年限(2年)在籍し、修了要件となる単位を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、学位(修士(看護学))を授与します。

1. 看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力
2. 高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力
3. 高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力

[看護学専攻(博士後期課程)]

標準修業年限(3年)在籍し、修了要件となる単位を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、学位(博士(看護学))を授与します。

1. 高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力
2. 卓越した専門性と倫理観、責任感を有し、指導者、管理者、教育者、研究者として学際的・国際的に、学術交流、保健医療活動に貢献できる能力

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[看護学専攻(博士前期課程)]

博士前期課程では、各専門専攻分野の高度な看護実践者、看護学教育者、看護学研究者、国際的に活躍できる人材を育成するために特別研究コース、グローバルナーシングコース、専門看護師コースを置きます。特別研究コースでは看護学の理論とその構築に必要な研究能力を、グローバルナーシングコースではグローバルヘルスの課題に貢献するために必要な研究能力を、専門看護師コースでは高度な実践能力と実践の場における研究能力が探求できる教育課程を編成します。研究・学修成果の評価は、予め明示した評価基準に基づき、総合的評価を行います。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

1. 共通科目
特別研究コース、グローバルナーシングコースと専門看護師コースにおける研究法、倫理観、学修の基盤となる広範な知識を修得する授業科目を設けます。
2. 専門科目
各専門専攻分野の高度看護実践者、看護学教育者、看護学研究者、国際的に活躍できる人材を育成するために必要な授業科目を設けます。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医療看護学研究科

3. 演習・研究指導

特別研究コース、グローバルナーシングコースでは特別研究、専門看護師コースでは課題研究を置き、特定の課題を見極めるための演習指導を行い、高度な専門的研究法を修得させ、学問的成果を論理的にまとめる能力の醸成のため修士論文を課します。

[看護学専攻(博士後期課程)]

博士後期課程では、個人及び個人を支える家族や地域で生活する人々の看護支援、看護職者の教育支援の開発や看護提供システムの構築などについて、新たな分野を切り拓く研究能力の養成を目指す研究開発コース、世界の国や地域、多様な文化において質の高い看護の提供するためのリーダーシップを担える人材の養成を目指すグローバルナーシングリーダーシップコースを置きます。研究開発コース、グローバルナーシングリーダーシップコースともそれぞれの専門性を高める共通科目、専門科目、演習・研究指導から編成します。研究・学修成果の評価は、予め明示した評価基準に基づき、総合的評価を行います。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

1. 共通科目

看護学の本質を探求できる能力に基づいた質の高い研究成果と高い倫理観・責任感に結びつくことを目的とします。

2. 専門科目

広範な健康問題や看護課題について実践的な研究が行えることを目的とし、看護学の知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力、リーダーシップ能力を身に付け、自らの研究テーマに関わる看護問題とその研究的アプローチを複数の専門領域の視座を通して学修し、学問的基盤を涵養します。博士前期課程(修士課程)の13分野をベースとして、個人及び個人を支える家族や世界の国・地域で生活する人々の看護支援開発、管理システム及び教育支援、リーダーシップについて高度な専門知識・学問的視座の修得を目指し13科目を設定します。研究開発コースでは、専門科目は2科目以上履修することとします。

3. 演習・研究指導

国内外の看護系大学、研究機関及び保健医療機関において教育・研究活動を担える指導者・研究者・管理者及び保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち、教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究の先鋭化と深化が図れる研究能力の修得を目指し、「看護学演習」「看護学特別研究」を設定します。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

保健医療学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

[理学療法学専攻(修士課程)]

標準修業年限(2年)以上4年以内在籍し、修了要件となる30単位以上を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(理学療法学)の学位を授与します。

1. 人体の機能・構造を多面的に理解し、理学療法学に関する研究に高い倫理観をもって取り組み遂行できる能力
2. 理学療法学分野のリーダーや管理者、または教育・研究者としての役割や理学療法学の研究動向を理解し、最新のエビデンスを分析する能力
3. 科学的根拠に裏付けされた理学療法学の専門的知識や技術の基本を応用できる能力
4. 理学療法学分野における問題に対して、体系的に整理し客観的に分析する能力

[診療放射線学専攻(修士課程)]

標準修業年限(2年)以上4年以内在籍し、修了要件となる30単位以上を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(診療放射線学)の学位を授与します。

1. 人体の機能・構造を多面的に理解し、診療放射線学に関する研究に高い倫理観をもって取り組み遂行できる能力
2. 診療放射線学分野のリーダーや管理者、または教育・研究者としての役割や診療放射線学の研究動向を理解し、最新のエビデンスを分析する能力
3. 科学的根拠に裏付けされた診療放射線学の専門的知識や技術の基本を応用できる能力
4. 診療放射線学分野における問題に対して、体系的に整理し客観的に分析する能力

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[理学療法学専攻(修士課程)]

理学療法学専攻(修士課程)においては、理学療法学の教育を受けた学生や社会人などに対し、高い専門性と発展的な理学療法学の知識を身に付けるための教育課程を編成し実施します。

1. 人体の機能・構造の専門的知識や高度の倫理観、保健医療分野の専門的な研究方法論を修得するために、共通科目に特論科目を配置します。成果は履修科目の成績により評価します。
2. リーダーや管理者、または教育・研究者としての必要な知識や、理学療法学の研究動向を理解し、最新のエビデンスを分析する方法を修得するために、共通科目と専門基礎科目に特論科目を配置します。成果は履修科目の成績により評価します。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

保健医療学研究科

3. 理学療法学の基幹領域での科学的根拠に裏付けされた理学療法学の専門的知識や技術の応用力を修得するために、専門科目に特論科目及び特論演習科目を配置します。成果は履修科目の成績により評価します。
4. 理学療法学における課題を見極め、研究計画立案から研究実施、さらに結果を分析する能力を修得するために、演習・研究指導科目に特別研究を配置します。成果は修士論文審査により評価します。

[診療放射線学専攻(修士課程)]

診療放射線学専攻(修士課程)においては、診療放射線学の教育を受けた学生や社会人などに対し、高い専門性と発展的な診療放射線学の知識を身に付けるための教育課程を編成し実施します。

1. 人体の機能・構造の専門的知識や高度の倫理観、保健医療分野の専門的な研究方法論を修得するために、共通科目に特論科目を配置します。成果は履修科目の成績により評価します。
2. リーダーや管理者、または教育・研究者としての必要な知識や、診療放射線学の研究動向を理解し、最新のエビデンスを分析する方法を修得するために、共通科目と専門基礎科目に特論科目を配置します。成果は履修科目の成績により評価します。
3. 診療放射線学の基幹領域での科学的根拠に裏付けされた診療放射線学の専門的知識や技術の応用力を修得するために、専門科目に特論科目及び特論演習科目を配置します。成果は履修科目の成績により評価します。
4. 診療放射線学における課題を見極め、研究計画立案から研究実施、さらに結果を分析する能力を修得するために、演習・研究指導科目に特別研究を配置します。成果は修士論文審査により評価します。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

国際教養学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本研究科の修士課程では、高い専門的知識とコミュニケーション力に基づいて、グローバル社会における保健医療を含む諸問題や持続可能な社会構築のための諸課題を分析し、国や地域を越えて他者と協議し、その解決に向けて貢献することのできる人材を育成します。

上記の人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標に即した体系的なコースワークを履修し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格し、所定の年限・単位数等を満たした者を、次に掲げる知識・能力を身につけたものと認め、修士(国際教養学)の学位を授与します。

[国際教養学専攻(修士課程)]

1. 論理性や批判的思考力、コミュニケーション能力、データ処理能力などの普遍的な能力を基盤とし、人間性、人間の社会及び人間と生命に関する高度な知識と理解を修得したことを示すことができる。
2. 自ら課題を発見し設定する力、自ら仮説を構築し検証する力、社会的・経済的価値を判断・創出する能力を基盤として、人間性、人間の社会及び人間と生命に関する高度な知識と理解を活用することができる。
3. グローバルリスクが持つ高い不確実性による制約を受けつつも、知識の活用に関する社会的・倫理的責任に配慮した情報に基づいて、異分野の知識を統合し、複雑性を処理し、自己の判断を導くことができる。
4. 多言語・多文化の環境下において、専門家及び非専門家に対して、結論とその根拠となる知識及び論理について、わかりやすく明確に伝えることができる。
5. 複雑化・多様化するグローバル社会に対応するために、生涯にわたり自律的・自主的な形で学習を継続することができる。

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本研究科の修士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標を達成するため、次に掲げる方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

[国際教養学専攻(修士課程)]

1. 体系的編成

分野横断・学際的な専門分野の知を統合した多層的かつ多元的な知の修得、複数の学問分野を俯瞰できる能力の獲得を目指すため、複数の異なる分野の科目を体系的に履修し、

そのためにまず教養教育を中心とした基盤科目においてこれまでに獲得した知識と教養(知性・智恵・実践的能力)の再開発・再教育(リスキリング)を行い、複数の分野の専門科目においてそれらの知識と教養を学際的かつ高度な専門的知識と統合します。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

国際教養学研究科

基盤科目と専門科目を履修するコースワークから確かな専門性を育む研究指導へと有機的に繋ぐ段階的かつ体系的なカリキュラムとします。

[国際教養学専攻(修士課程)]

1. 体系的編成

分野横断・学際的な専門分野の知を統合した多層的かつ多元的な知の修得、複数の学問分野を俯瞰できる能力の獲得を目指すため、複数の異なる分野の科目を体系的に履修します。

そのためにまず教養教育を中心とした基盤科目においてこれまでに獲得した知識と教養(知性・智恵・実践的能力)の再開発・再教育(リスキリング)を行い、複数の分野の専門科目においてそれらの知識と教養を学際的かつ高度な専門的知識と統合します。

基盤科目と専門科目を履修するコースワークから確かな専門性を育む研究指導へと有機的に繋ぐ段階的かつ体系的なカリキュラムとします。

2. 教養の再開発・再教育

大学院で身に付けることが期待される、自ら課題を発見し設定する力、自ら仮説を構築し検証する力、社会的・経済的価値を判断・創出する能力等の今後の社会を先導できる力、様々な場面で通用するトランスファラブルな力を修得するため、論理性や批判的思考力、コミュニケーション能力等の教養教育で身に付ける普遍的なスキル・リテラシーの再開発・再教育(リスキリング)を行う講義・演習を基盤科目に設けます。

3. 普遍的な技能の修得

複数の学問分野を俯瞰できる能力の獲得に必要な普遍的なスキル・リテラシー、トランスファラブルな力を養うため、英語によるアカデミックリテラシー、数理・データサイエンス及びリサーチリテラシーの教育を行います。

英語によるアカデミックリテラシーの教育は、アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティング及びプレゼンテーションを核とします。

数理・データサイエンスの教育は、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力を養います。

リサーチリテラシーの教育は、最先端の知にアクセスする能力、自ら課題を発見し設定する力、自ら仮説を構築し検証する力、倫理観(研究倫理)を養います。

4. 専門知識の深化

専門科目において、人文・社会科学及び自然科学並びに応用科学の高度な専門知識を横断的に学ぶことで、学部段階からの知識の深化を図り、他分野に跨る知の活用から新しい発見や創造を導く先駆的事例とそのための方針を修得します。

5. 応用力の開発

修士論文又は特定の課題についての研究の成果を取り纏めることができるように研究指導教員及び研究指導補助教員による研究指導を行います。

なお、研究者としてのキャリアを希望する者に対して、様々な研究手法(研究に必要なフ

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

ィールドワークや文献調査のデザイン等)を修得することができるよう必要な科目を設けます。